

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成30年2月22日 (2018.2.22)

【公表番号】特表2017-517444(P2017-517444A)

【公表日】平成29年6月29日 (2017.6.29)

【年通号数】公開・登録公報2017-024

【出願番号】特願2016-546823(P2016-546823)

【国際特許分類】

B 6 5 D 85/10 (2006.01)

B 6 5 D 5/38 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 85/10

B 6 5 D 5/38 J

B 6 5 D 5/38 E

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月11日 (2018.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

【図 1】本発明に係るスイングオープン型硬質タバコパケットの閉状態の前方斜視図である。

【図 2】図 1 のタバコパケットの閉状態での後方斜視図である。

【図 3】図 1 のタバコパケットの開状態での前方斜視図である。

【図 4】閉状態にある図 1 のタバコパケットの底部の概略図である。

【図 5】開状態にある図 1 のタバコパケットの底部の概略図である。

【図 6】閉状態にある図 1 のタバコパケットの変形例の底部の概略図である。

【図 7】開状態にある図 1 のタバコパケットの変形例の底部の概略図である。

【図 8】図 1 のタバコパケットの外箱と内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 9】図 8 のブランクの変形例の平面図である。

【図 10】図 1 のタバコパケットの内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 11】開状態にある図 1 のタバコパケットの別実施形態の前方斜視図である。

【図 12】図 11 のタバコパケットの外箱全体を作るためだけに使用されるブランクの平面図である。

【図 13】図 11 のタバコパケットの内箱全体を作るためだけに使用されるブランクの平面図である。

【図 14】閉状態にある図 11 のタバコパケットの底部の概略図である。

【図 15】開状態にある図 11 のタバコパケットの底部の概略図である。

【図 16】閉状態にある図 11 のタバコパケットの変形例の底部の概略図である。

【図 17】開状態にある図 11 のタバコパケットの変形例の底部の概略図である。

【図 18】閉状態にある図 1 のタバコパケットの、本発明に含まれない変形例の底部の概略図である。

【図 19】開状態にある図 1 のタバコパケットの、本発明に含まれない変形例の底部の概略図である。

【図 2 0】閉状態にある図 1 のタバコパケットの、本発明に含まれない別の変形例の底部の概略図である。

【図 2 1】開状態にある図 1 のタバコパケットの、本発明に含まれない別の変形例の底部の概略図である。

【図 2 2】図 1 8 から図 2 1 のタバコパケットの内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 2 3】図 2 2 のブランクの変形例の平面図である。

【図 2 4】開状態における図 1 のタバコパケットの本発明に含まれない変形例の前方斜視図である。

【図 2 5】外箱に対し内箱が様々な位置をとる図 2 4 のタバコパケットの上部の概略図である。

【図 2 6】外箱に対し内箱が様々な位置をとる図 2 4 のタバコパケットの上部の概略図である。

【図 2 7】外箱に対し内箱が様々な位置をとる図 2 4 のタバコパケットの上部の概略図である。

【図 2 8】外箱に対し内箱が様々な位置をとる図 2 4 のタバコパケットの上部の概略図である。

【図 2 9】図 2 4 のタバコパケットの外箱と内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 3 0】図 2 4 のタバコパケットの内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 3 1】開状態における図 1 のタバコパケットの本発明に含まれない変形例の後方斜視図である。

【図 3 2】開状態における図 1 のタバコパケットの本発明に含まれない変形例の前方斜視図である。

【図 3 3】図 3 1 及び図 3 2 のタバコパケットの内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 3 4】開状態における図 1 のタバコパケットの本発明に含まれない変形例の前方斜視図である。

【図 3 5】図 3 4 のタバコパケットの外箱と内箱の一部とを作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 3 6】図 3 4 のタバコパケットの内箱の一部を作るために使用されるブランクの平面図である。

【図 3 7】図 3 5 のブランクの変形例の平面図である。

【図 3 8】図 3 6 のブランクの変形例の図である。

【図 3 9】図 3 6 のブランクの変形例の図である。

【図 4 0】本発明に含まれない図 3 4 のタバコパケットを形成するため、図 3 7 と図 3 8 又は図 3 9 とに示したブランクの折り畳みを示す概略的斜視図である。

【図 4 1】図 4 0 の細部を拡大した図であって、部分的に折り畳まれた図 3 7 のブランクを示した図である。

【図 4 2】図 4 0 の細部を拡大した図であって、図 3 8 又は図 3 9 のブランクの折り畳みを示した図である。

【図 4 3】第 1 包装機で図 3 4 のタバコパケットを形成するべく、図 3 7 と図 3 8 又は図 3 9 とのブランクの折り畳みを示した概略的斜視図である。

【図 4 4】第 2 包装機で図 3 4 のタバコパケットを形成するべく、図 3 7 と図 3 8 又は図 3 9 とのブランクの折り畳みを示した概略的斜視図である。

【図 4 5】第 3 包装機で図 3 4 のタバコパケットを形成するべく、図 3 7 と図 3 8 又は図 3 9 とのブランクの折り畳みを示した概略的斜視図である。

【図 4 6】第 4 包装機で図 3 4 のタバコパケットを形成するべく、図 3 7 と図 3 8 又は図 3 9 とのブランクの折り畳みを示した概略的斜視図である。

【図４７】図３４のタバコパッケージを形成するべく、図３７と図３８又は図３９とのブランクを折り畳む第５包装機の概略的平面図である。

【図４８】図４７の第５包装機における図３７と図３８又は図３９とのブランクの折り畳みを示す概略的側面図である。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３１】

図１８～図２２は、ストップタブ１８が中間パネル２２を持たない（即ち、ストップタブ１８の内パネル１９は、存在しない中間パネル２２の介在なしに、ストップタブ１８の外パネル２０に直接接続される）更なる実施形態（本発明に含まれない）を示している。この実施形態においても、ストップタブ１８の外パネル２０は、接着剤２１によって（図１８及び図１９に示すように）外箱４の底壁１２、又は、（図２０及び図２１に示すように）外箱４の後壁１４に接着することができる。強調すべき重要なことは、ストップタブ１８が中間パネル２２も備える図１～図１７に示した実施形態は好適であるということである。何故なら、中間パネル２２があることでストップタブ１８がより簡単でより自然な動きが可能となり、ストップタブ１８の動作を改善することができるからである。言い換えれば、（結果として内パネル１９のサイズ変更を伴う）ストップタブ１８への中間パネル２２の挿入により、外箱４に対して内箱３が主ヒンジ５周りで回転する際、ストップタブ１８のより簡単でより自然な動き（即ち、変形）を達成できるということである。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３３】

図２４～図３０は、タバコパッケージ１の変形例（本発明に含まれない）を示しており、ここでは所定の保持力で内箱３を閉位置（即ち、図１及び図２に示したように外箱４の内側）に保持する保持部材が異なった形状となっている。図２４～図３０に示す実施形態では、外箱４と機械的に干渉するストップタブ１７又は３３を有する代わりに、保持部材は、内箱３の後壁９から上方に突出する（つまり、内箱３の後壁９の自然な上向き延長部を構成する）と共に後壁９の上端縁にヒンジ結合された１組の保持タブ３４を有する。さらに、保持部材は１組の保持座３５を有し、保持座３５は外箱４の上壁１１の内側にあって、外箱４の後壁１４近くに作られ、保持タブ３４の反対向きの形状を再現している。内箱３が（図２４及び図２５に示す）開位置から（図２７に示す）閉位置に移動すると、保持タブ３４は外箱４の上壁１１の縁に当たり、内箱３の内側に向かうようにして、即ち（図２６に示すように）包装されたタバコ群２の上壁に向かうようにして、内箱３の後壁９に対し９０度折れ曲がる。内箱３が（図２７に示すように）閉位置にあるとき、保持タブ３４は、内箱３の後壁９に対して９０度折り曲げられ、対応する保持座３５の内側に収容される。内箱３が閉位置から開位置に移動するとき、保持タブ３４は対応する保持座３５の内端縁に対して引っ掛かり、内箱３の外側に向かうようにして、即ち包装されたタバコ群２の上壁から離れるようにして、内箱３の後壁９に対し９０度折れ曲がる。内箱３が外箱４から出てくるとき、保持タブ３４はもはや外箱４の上壁１１によって拘束されない状態となり、（図２５に示す）垂直位置へと弾性復帰する。言い換えれば、内箱３が開位置から閉位置へ移動するとき、保持タブ３４は一方向に９０度折れ曲がり、内箱３が閉位置から開位置へ移動するとき、保持タブ３４は反対方向に９０度折れ曲がる。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 7 】

図 3 1、3 2 及び図 3 3 は、タバコパケット 1 の異なる実施形態（本発明に含まれない）を示しており、ここではタバコ群 2 は、タバコのための上部前方取り出し口 3 6 を有する密封包装物に封入される。タバコのための取り出し口 3 6 は、中央に位置し、「開閉」型の封止パネル 3 7 によって閉じられ、密封包装物の後壁の一部分と密封包装物の上部の一部分を含んでいる。封止パネル 3 7 は、通常、取り出し口 3 6 周りにある密封包装物の一部分に付着して、取り出し口 3 6 を閉じる（密封する）と共に取り出し口 3 6 を解放し、それに続く取り出し口 3 6 からのタバコの取り出しを可能にするために一時的に持ち上げることが可能となっている。好ましくは、封止パネル 3 7 のフラップは外箱 4 の上壁 1 1 の内面に恒久的に接着され、外箱 4 に対する内箱 3 の動きによっても封止パネル 3 7 の「自動的」（即ち、更なるユーザーアクションなしに実行されるような）開閉動作を発生するようになっている。言い換えれば、内箱 3 を閉位置から開位置（図 3 1 及び図 3 2 に示される）に移動させることにより、封止パネル 3 7 は「自動的に」（即ち、更なるユーザーアクションなしに）開き、同様に、内箱 3 を開位置（図 3 1 及び図 3 2 に示される）から閉位置に移動させることにより、封止パネル 3 7 は「自動的に」（即ち、更なるユーザーアクションなしに）閉じる。図 3 3 は、図 3 1 及び図 3 2 に示した内箱 3 を作るための、変更されたブランク 2 9（上方切り出しが拡大されている）を示している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 8 】

図 3 4 ~ 図 3 9 は、タバコパケット 1 の異なる実施形態（本発明に含まれない）を示しており、ここでは内箱 3 は、蓋ヒンジ 3 9 に沿って内箱 3 にヒンジ結合されて内箱 3 に対して開放上端 6 の開位置（図 3 4 に示す）と閉位置の間で回転するヒンジ蓋 3 8 を有している。蓋 3 8 は、蓋 3 8 が閉位置にあるとき、（存在すると仮定して）内箱 3 の底壁 7 と平行かつ反対側に位置する矩形の上壁 4 0 と、蓋 3 8 が閉位置にあるとき、内箱 3 の後壁 9 の連続部を成す矩形の後壁 4 1 と、蓋 3 8 が閉位置にあるとき、内箱 3 の側壁 1 0 の連続部を成す 2 枚の矩形側壁 4 2 とを有する。蓋ヒンジ 3 9 は、内箱 3 の後壁 9 の上端縁を蓋 3 8 の後壁 4 1 の下端縁に接続している。